

海の応援団

VOL. 5 「つくる漁業」で豊かな海に（山形県栽培漁業センター）

私たちに豊富な恵みを与えてくれる"海"。この連載では、海を守り育て、未来に引き継ぐ活動や、海を生かした地域活性化の取り組みを紹介します。今年には山形県で全国豊かな海づくり大会が開催されます。この機会に海の大切さへ目を向けてみませんか。

■問合せ／本所農山漁村振興課 ☎25 - 2111内線558

海の中の魚や貝は卵からふ化し稚魚や稚貝になるまでの間、多くの外敵から捕食されます。栽培漁業とは、魚にとって最も危険なこの期間を人の手で育て、成長した稚魚を海や川に放流し、更に大きくなったものを漁獲するもので、「つくる漁業」とも言われます。公益財団法人山形県水産振興協会が運営する、三瀬地区にある山形県栽培漁業センターでは、栽培漁業の要となる「つくる」過程を担い、ヒラメ、クロダイ、アユ、アワビ、モクズガニ、トラフグ等年間約350万の稚魚や稚貝を育て、放流を行う漁協等に供給しています。

「漁獲等で減少した水産資源を補うために、海で生き抜くことのできる、強い稚魚や稚貝を育てることが私たちの仕事です」と話すのは業務部長の川上浩之さん。同センターでは、海水をくみ上げ、実際の海に近い生育環境を整えています。また、



アワビの稚貝

稚魚や稚貝が、岩陰など外敵に見付かりにくい場所を探す習性や、外敵に襲われても逃げることのできる俊敏な泳ぎ等を身に付けられるよう工夫しながら育てています。

「生き物が相手のため毎日が試行錯誤。魚種ごとの生態に合わせた育て方ももちろんのこと、稚魚



ヒラメの稚魚

のため水温や水質など少しの変化にも敏感でいる必要があります。気が休まりません」と川上さんは言います。その分、苦勞して育てた魚の色や体型を見た漁業関係者などに「いい魚ですね」と言われると、とてもやりがいを感じるそうです。

育てた稚魚や稚貝には、識別のための目印が付いていて、漁協等と協力しながら混獲率（漁獲された魚に占める放流魚の割合）を調査し、放流が漁獲につながっていることを確認していると川上さん。特に、トラフグは目に見えて成果が上がっていて、混獲率が20%を超えています。川上さんは「強い魚を育てることで、私たちも水産資源の保全と水産業の振興に貢献したい」と抱負を語ってくれました。

第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～
大会キャラクター「もっけだのん」

10日㊥・11日㊦は、
いよいよ大会本番！
みんなで盛り上げようのぉ！！



「海の応援団」は今回が最終回です。ご愛読ありがとうございます。

編集・発行／鶴岡市総務部総務課

鶴岡市役所 本所	〒997-8601	山形県鶴岡市馬場町9-25 ☎0235-25-2111 FAX0235-24-9071
	(メールアドレス)	tsuruoka@city.tsuruoka.lg.jp
	(ホームページ)	http://www.city.tsuruoka.lg.jp
	(フェイスブックページ)	https://www.facebook.com/tsuruokacity
	(窓口受付時間)	月曜～金曜日(祝日・年末年始除く) 午前8時30分～午後5時15分
藤島庁舎	〒999-7696	市内藤島字笹花25 ☎64-2111
羽黒庁舎	〒997-0192	市内羽黒町荒川字前田元89 ☎62-2111
櫛引庁舎	〒997-0346	市内上山添字文栄100 ☎57-2111
朝日庁舎	〒997-0492	市内下名川字落合1 ☎53-2111
温海庁舎	〒999-7205	市内温海戊577-1 ☎43-2111



《人口と世帯》(平成28年7月31日現在)
住民基本台帳人口合計：130,636人
(男：62,285人、女：68,351人)
世帯数：48,671世帯